

都道府県番号	16
都道府県名	富山県
①	② □ ③ □

学校名及び規模

学校名	砺波市立出町小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	4	16	22
児童数	77	62	57	55	67	57	7	382	

研究の概要

(1) 研究主題

生きてはたらく力の向上を目ざして 教科・領域・総合の関連の中で「確かな学力」を育てる -

(2) 研究主題設定の趣旨

本校では、教科・領域・総合的な学習の時間の関連の中で、教科の学習で得た知識や技能を生かしながら、事実を具体的にとらえたり生活体験などと結びつけ物事を深く考えたりして、自分の生活に生かそうとする子どもの育成を目ざしてきた。

平成14年度からは、学力向上フロンティアスクールの研究指定を受け、「確かな学力」をどのように育てるかを命題に実践に取り組んでいる。「確かな学力」は、次の3点から形成されると考える。

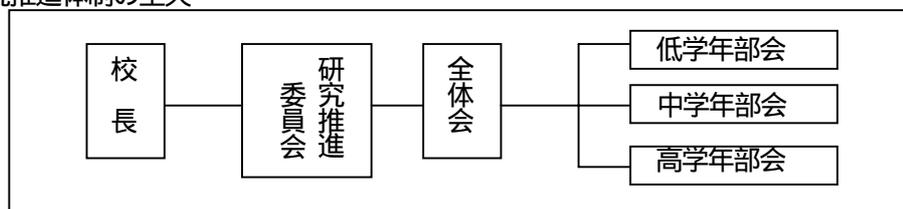
基礎的・基本的な内容（基礎・基本）の定着  
自ら学び自ら考える力（生きてはたらく力）の育成  
学ぶ意欲の向上

本校では、これまでの研究の歩みを踏まえ、「確かな学力」は、教科・領域・総合的な学習の時間を通して育てられると考えている。また、「確かな学力」の中に含まれる、自ら学び自ら考える力として本校が独自に設定している15の「生きてはたらく力」は、学習や生活の中で生かすことができると考えている。教科においては主に基礎的・基本的な内容の定着を、総合的な学習の時間においては問題解決能力などの育成を目ざすとともに、それらの効果的な関連のさせ方についても研究を進めていきたい。

尚、平成15年度は、算数科と総合的な学習の時間を中心に取り組んでいる。

研究の概要

(1) 研究推進体制の工夫



低、中、高学年のそれぞれの部会が、研究について提案する授業研修会を定期的に行っている。そして、それをもとに、研究主任が中心となって実践上の課題と成果について話し合い（研究推進委員会）研究内容と方向を明確にするよう努めている。

(2) 研究の実際

基礎的・基本的な内容の定着

[きめ細かな指導法の工夫]

- ・ 少人数指導の実施
- ・ 繰り返し指導
- ・ 学力検査などの実施

自ら学び、自ら考える力の育成

[教科・領域・総合を関連づけた指導の推進]

- ・ 年間指導計画の作成

[「生きてはたらく力」の評価規準を生かした評価と支援の工夫]

- ・ 15の「生きてはたらく力」の設定
- ・ 自分を見つめ、振り返る場の工夫

学ぶ意欲の向上

[学習意欲を喚起する教材開発]

- ・ 補充的・発展的な学習の教材開発

[学ぶ習慣の定着]

- ・ 定着の時間の設定

(3) 研究の成果と課題

研究の成果

<実践例1：数量や図形についての表現や処理の能力を伸ばすための個に応じた教材の開発>

第5学年算数科

「ようこそ！面積ワールドへ！いろいろな図形の面積を求めよう - 平行四辺形と三角形の面積 - 」

## 実践の概要

5 学年では、4 月実施の学力調査結果で落ち込みが見られた数量や図形についての表現や処理の能力を伸ばすことを、年間を通した指導の重点とした。

### 学習意欲を喚起する教材開発と指導過程の工夫

平面図形の面積を求める学習が5 学年で終了することから、図形を世界地図に5 つの“ワールド”として分け、子どもたちの「ワールドにある図形の面積を正しく求めてみたい。」という意欲を高めながら、自力で平行四辺形や三角形の面積を求めていく学習を展開した。

子どもが自分の進捗や理解度に合わせて学習できる「できたよコーナー（小グループによる発表コーナー）」や「ヒントコーナー（補完的な内容を加味した支援コーナー）」の場を設定した。また、必要に応じてチームティーチングによる全体学習も行い、コース別に学んできた学びの交流や共有化を図るようにした。



後半のチャレンジワールドでは、単元テストの結果をもとに、補完的な学習コースと発展的な学習コースに分けて学習のまとめをした。補完的な学習コースでは、復習の後、発展的な扱いとして台形の面積を求めた。発展的な学習コースでは、台形やひし形、多角形などの面積を多様な方法で求め、発表し、公式も考えるなど個に応じた学習を進めた。

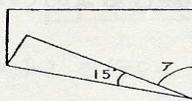
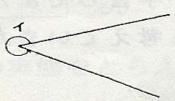


### 図形の見方や感覚、量感を豊かにする算数的活動の工夫

6 月実施の「四角形をつくろう」では、平行・垂直の作図の仕方などで、子どもがものさしや三角定規、分度器の扱いに慣れ、正確に作図できるような活動をコースの実態に応じて行った。11 月実施の平行四辺形や三角形の求積方法を考える際にも、実物を切る、折る、動かす算数的活動を十分行ったり、「パズルコーナー」を設置し、課外でタングラムなどの等積変形を体験したりできるようにし、数量や図形についての表現や処理の能力を伸ばす工夫をした。

## 実践の成果

- 子どもたちは様々な算数的活動に取り組む中で、既習の図形を基にして平行四辺形や三角形の等積変形や倍積変形などを行い、その面積を求めることができるようになっていった。チャレンジワールドの補充コースで学習したI 男は、台形の面積を長方形から余分な三角形を引く方法で求めた。友達に説明をした後「自分の考えを発表して、うれしかった。」と自分なりの方法で問題を解くことを楽しんだ。
- 少人数指導によって子どもたちは、「自分の考えを友達に分かりやすく伝える」などの目当てをもち、分かりやすいノートの書き方、筋道が通った話し方を意識して学習に取り組むことができた。
- 単元終了後、4 月実施の学力調査結果で、最も落ち込みが見られた数量や図形についての表現や処理の能力をみる問題を使って再び評価したところ、以下のように正答率が上昇した。

5 年学力調査結果の正答率			〔3〕 次の問いに答えましょう。	
	[3]-(1)	[3]-(2)	(1) 長方形の紙を下の図のように折りました。アの角度は何度ですか。	(2) 下の図のイの角度を分度器を使ってはかりましょう。
県平均	15.5%	63.2%		
4 月実施	13.5%	56.5%		
7 月実施	16.6%	61.4%		
12 月実施	22.2%	80.9%		

### <実践例 : 教科・領域・総合の関連の中で「生きてはたらく力」を育てる教材の開発>

第4 学年算数科：「かわり方を見やすく表そう - グラフで節水を呼びかけよう - 」

## 実践の概要

算数と総合的な学習の時間との学習内容を関連させ、一人一人に問題意識が生まれる単元を構想した。

### かかわりを通して学ぶ指導過程の工夫

子ども同士がかかわりながら学ぶことができる情報交換の場「聞いてコーナー」や教え合う「ヒントコーナー」でのかかわらせ方を工夫した。

### 個に応じた指導過程や評価の工夫

評価では、子どもの自己評価や相互評価、教師評価について工夫した。自己評価では、「生きてはたらく力」の観点「自分のよさに気づく・友達のをよさを見つける」から、自他のよさを見つけることができるように配慮した。また、相互評価では、互いの考えや取り組みのよさを伝え合う「よいところ見つけカード」や改善点を助言し合う「アドバイスカード」を交換し合った。教師評価では、毎時間の評価規準をもとにして、子どもたちの様子を補助簿に記録していった。

## <出町を環境にやさしい町にしよう！>

### 算数科

### 総合的な学習の時間

#### 第1次「折れ線グラフで表そう」 <習熟度別学習>

コースは自分で選んだよ。

教科書を利用して指導計画に沿って、基礎的な能力の定着を図る。



#### 1学期テーマ「節水」

説得力のある資料で「節水」を家庭や全校、出町地区に広めよう。



もっと分かりやすく伝えたい。

#### 第2次「グラフを利用して節水を呼びかけよう」 <課題別学習（伝えたい相手別コース）>

- ・「出町小学校へ節水を呼びかけようコース」・「全校の各家庭にお知らせしたいコース」・「地域にお知らせしたいコース」で取り組む。
- ・「ヒントコーナー」「聞いてコーナー」等を設ける。

#### 第3次「友達同士で発表し合い、より伝わるように修正を加えよう」

- ・「アドバイスカード」「よいところ見つけカード」を交換し合い、より分かりやすいグラフにする。

### 生きてはたらく力

節水を呼びかけるために、データ等を数やグラフを活用して表すことで、説得力のある主張をしていく。

《問題を解決する力》

互いのグラフのよさを見つけ伝えることができる。

《自分のよさに気づく力》

《友達のよさを見つける力》

《伝える力》

### 道徳・心のノート

教えてもらってうれしかった。

自分の節水作戦を実行しよう（課外も含む）

### 実践の成果

- ・ 算数と総合的な学習の時間を関連させたことにより、子どもたちに表やグラフを学ぶ必要感をもたせ、学習意欲を高めることができた。
- ・ 2クラスを3人の教師による習熟度別と課題別の2通りの少人数指導の形態にした。このことにより、教師は一人一人のつまづきを的確にとらえ、それに応じた指導を展開することができた。4月実施の学力調査を本単元終了後に再度実施したところ、棒グラフに関する内容理解の正答率が48%から78%と、30%も上昇した。さらに、総合的な学習の時間に、節水を全校児童に呼びかける新聞作りを行った際、説得力ある内容にするためグラフを活用する機会を設けた。子どもたちは、「棒グラフで表すと使った水の量の差が分かりやすくなったよ。折れ線グラフは、使った量の変わり方がよく分かるね。」と必要に応じてグラフを使い分けるなど、算数科での学習を生かしていった。
- ・ 指導過程や評価の工夫によって、互いに認め合いながらよりよい自分に成長しようと、自信をもち、意欲的に取り組む子どもの姿が見られた。

### 課題

- ・ 「生きてはたらく力」を本校の子どもの実態に即して重点化し、実践に取り組む必要がある。
- ・ 子どもに学ぶ習慣を身につけさせる指導の工夫や学力向上のシステムづくりを図る。
- ・ 評価にあたっては、子どもをとらえる観点を教師間で十分に共通理解しておくことが必要である。
- ・ 問題意識を生み出したり、筋道を立てて考えたことを表したりする算数的活動を十分に行い、一人一人に考えさせる体験を増やしたり、その楽しさに気づかせたりすることが大切である。

### (4) 研究成果の普及の方策

毎年、教育実践研究発表会を実施している。今後は、日常の授業や校内研修会にも気軽に他校から参観できるように、連絡調整を図りながら地区の学校に呼びかけをしていきたい。

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校
【学校規模】	6学級以下	7～12学級
	13～18学級	19～24学級
	25学級以上	
【指導体制】	少人数指導	TTによる指導
	一部教科担任制	その他
【研究教科】	国語 社会 生活	算数 理科
	音楽 体育 ○その他	図画工作 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有 無

**【特色ある取り組み事例として紹介したいポイント】**

数量や図形についての表現や処理の能力を伸ばすための個に応じた教材の開発

- ・ 学習意欲を喚起する教材開発と指導過程の工夫
  - ・ 図形の見方や感覚、量感を豊かにする算数的活動の工夫
- 教科・領域・総合の関連の中で「生きてはたらく力」を育てる教材の開発
- ・ 算数と総合的な学習の時間との学習内容を関連させた教材の開発